



チャットの管理

- [チャット管理の概要 \(1 ページ\)](#)
- [チャット管理の要件 \(2 ページ\)](#)
- [チャット管理タスクフロー \(3 ページ\)](#)
- [チャットインタラクションの管理 \(17 ページ\)](#)

チャット管理の概要

IM and Presence Service は、チャット ルームを管理し、チャット ルームにアクセスできるユーザを制御するために使用できる設定を提供します。以下の機能が含まれます。

- 新しいルームを作成したり、作成したルームのメンバーおよび設定を管理します。
- メンバーだけがアクセスである常設チャット ルームへのアクセスの制限。
- チャット ルームへの管理者の割り当て。
- ルームへの他のユーザの招待。
- ルームに表示されるメンバーのプレゼンスステータスの確認。ルームに表示されるプレゼンスステータスは、ルームへのメンバーの参加を示しますが、全体のプレゼンスステータスが反映されないことがあります。

IM and Presence Service を使用すると、チャット ノードのエイリアスを管理することもできます。チャット ノードエイリアスを使用すると、ユーザは特定のノード上の特定のチャット ルームを検索して、参加することができます。

さらに、IM and Presence Service はトランスクリプトを保存し、チャット ルームに参加したばかりのメンバーを含むルーム メンバーにこのチャット ルームの履歴が利用できるようにします。新規または古くからのメンバーが使用可能な既存のアーカイブのサイズは設定可能です。。

チャット ノード エイリアスの概要

システムの各チャット ノードに一意のエイリアスが必要です。チャット ノードエイリアスは、(任意のドメイン内の) ユーザが特定のノード上の特定のチャット ルームを検索し、これらの

ルームのチャットに入室できるように各チャットノードに一意のアドレスを作成します。チャットノードのエイリアスは、そのノード上に作成される各チャットルームの一意のIDの一部を形成します。たとえば、エイリアス `conference-3-mycup.cisco.com` は、そのノード上に作成されるチャットルーム名に使われて、`roomjid@conference-3-mycup.cisco.com` となります。

チャットノードのエイリアスを割り当てるには、以下の2つのモードを使用します。

- システム生成: 各チャットノードに一意のエイリアスが自動的に割り当てられます。システムは、命名規則 `conference-x-clusterid.domain` を使用して、デフォルトではチャットノード毎に1個のエイリアスを自動生成します。
 - `conference` はハードコードされたキーワードです
 - `x` は、ノードIDを示す一意の整数値です
 - `clusterid` は設定されたエンタプライズパラメータです
 - `domain` が設定されているドメイン

たとえば、システムは、`conference-3-mycup.cisco.com` と割り当てられていることができます。

- 手動: チャットノードエイリアスを手動で割り当てることができるようにするには、システム生成エイリアスを無効にしなければなりません。手動管理されたエイリアスでは、特定の要件に合うエイリアスを使用してチャットノードに名前を付けられるため、完全な柔軟性が提供されます。たとえば、`congerence-x-clusterid.domain` という命名規則が導入のニーズに合わない場合、このオプションを使用することができます。

ノードあたり複数のエイリアスの割り当て

ノード単位で各チャットノードに複数のエイリアスを関連付けることができます。ノードごとに複数のエイリアスを関連付けると、ユーザはこれらのエイリアスを使用して追加のチャットルームを作成できます。この機能は、システム生成のエイリアスおよび手動で作成されたエイリアスの両方に適用されます。

チャット管理の要件

常設のチャットが有効になっていることを確認します。

チャット管理タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	チャットルーム オーナーのチャットルーム設定の編集機能を有効にする (4 ページ)	チャットルームのオーナーがチャットルームの設定を編集できるようにするかどうかを設定します。編集できるようにしない場合は、管理者のみがチャットルームの設定を編集することができます。
ステップ2	クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録の許可 (5 ページ)	ユーザがコンピュータでインスタントメッセージ履歴をローカルにログ記録することを防止または許可することができます。
ステップ3	外部データベース Text Conferencing Report の表示 (5 ページ)	常設チャットルームの詳細を提示する外部データベース Text Conferencing Report を表示するには、以下の手順を使用します。
ステップ4	<p>チャットルームの設定を編集します。以下のタスクのいずれかを任意の順序で実行して、チャットルームの設定を変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • チャットルーム数の設定 (6 ページ) • チャットルームのメンバー設定の構成 (6 ページ) • 可用性の設定 (8 ページ) • 利用者数の設定 (10 ページ) • チャットメッセージの設定 (10 ページ) • モデレータが管理するルームの設定 (11 ページ) • 履歴の設定 (12 ページ) 	(注) 常設チャットの設定を更新する場合は、Cisco Unified IM and Presence Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択して、Cisco XCP Text Conference Manager サービスを再起動します。
ステップ5	チャットルームのシステム デフォルト設定へのリセット (12 ページ)	チャットの設定をシステムのデフォルトにリセットする場合は、以下のオプションタスクを実行します。アドホックチャットはデフォルトで有効に、常設チャットはデフォルトでは無効に設定さ

	コマンドまたはアクション	目的
		れています。このタスクを完了すると、常設チャットは無効となります。
ステップ 6	チャット ノードのエイリアスの管理 (13 ページ)	エイリアスは、(任意のドメイン内の) ユーザが特定のノード上の特定のチャットルームを検索し、これらのルームのチャットに入室できるように各チャットノードに一意のアドレスを作成します。システムの各チャットノードに一意のエイリアスが必要です。
ステップ 7	常設チャット用の外部データベースのクリーンアップ (16 ページ)	オプション。外部データベースのクリーンアップユーティリティを使用して、外部データベースを監視するジョブを設定し、期限切れのレコードは削除します。これで、常に最新のレコードのために十分なディスクスペースが確保されます。

チャットルームオーナーのチャットルーム設定の編集機能を有効にする

チャットルームのオーナーがチャットルームの設定を編集できるようにする場合は、この手順を使用します。



(注) クライアントからこれらの設定をどの程度行えるかは、クライアントの実装や、クライアントがこれらの設定を行うインターフェイスを提供しているかどうかで決まります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、メッセージング > グループチャット および 常設チャットを選択します。

ステップ 2 ルームのオーナーはルームをメンバー専用にするかどうかを変更できる チェック ボックスの値を設定します。

- オン: チャットルームのオーナーは、チャットルームの設定を編集する管理機能を利用することができます。
- オフ: 管理者のみがチャットルームの設定を編集することができます。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 Cisco Unified IM and Presence Serviceability で、ツール > コントロールセンター - 機能サービスを選択します。

ステップ 5 Cisco XCP Text Conference Manager サービスを再起動します。

クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録の許可

ユーザがコンピュータでインスタントメッセージ履歴をローカルにログ記録することを防止または許可できます。クライアント側では、アプリケーションがこの機能をサポートしている必要があります。これは、インスタントメッセージのログ記録の防止を実行する必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、メッセージング > 設定を選択します。

ステップ 2 次のようにインスタントメッセージ履歴のログ記録の設定を行います。

- クライアントアプリケーションのユーザに IM and Presence Service でインスタントメッセージのログ記録を許可するには、クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録を可能にする(サポートされているクライアントのみ)をオンにします。
- クライアントアプリケーションのユーザに IM and Presence Service でインスタントメッセージ履歴のログ記録を許可しない場合は、クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録を可能にする(サポートされているクライアントのみ)をオフにします。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

外部データベース Text Conferencing Report の表示

外部データベースの Text Conferencing Report を表示するには、次の手順を使用します。このレポートでは、導入環境内の常設チャットルームとアドホックチャットルームの詳細が表示されます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration にログインします。

ステップ 2 [メッセージング] > [グループチャットと永続的なチャット] を選択します。

ステップ 3 [常設チャットデータベースの割り当て (Persistent Chat Database Assignment)] の下の [ルームレポート (Room Report)] ボタンをクリックします。

ステップ 4 特定の条件を満たすルームだけを選択するには、フィルタ ツールを使用します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ6 特定のチャットルームを選択すると、そのルームの詳細が表示されます。

(注) データベースから取得されるレコードの数は、[取得されたレコード]ドロップダウンリストから選択した値によって異なります。

チャットルームの設定

チャットルーム数の設定

ユーザが作成できるルーム数を制限するには、ルーム設定を使用します。チャットルームの数を制限すると、システムのパフォーマンスがサポートされ、拡張性が許容されます。ルーム数の制限は、起こり得るサービス レベル攻撃の軽減にも役立ちます。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、メッセージング > グループチャット および 常設チャットを選択します。

ステップ2 許可したチャットルームの最大数を変更するには、[許可されるルームの最大数 (Maximum number of rooms allowed)] のフィールドに値を入力します。デフォルトでは 5500 に設定されています。

ステップ3 [保存 (Save)] をクリックします。

チャットルームのメンバー設定の構成

メンバー設定で、チャットルームのメンバーシップをシステムレベルで制御することができます。こういった制御は、禁止などの管理操作によって防止できるサービスレベル攻撃を軽減する上で役立ちます。必要に応じてメンバーを設定します。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、メッセージング > グループチャット および 常設チャットを選択します。

ステップ2 ルームメンバーの設定の説明に従って、ルームメンバー設定を構成します。

ステップ3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ4 Cisco Unified IM and Presence Serviceability で、ツール > コントロールセンター - 機能サービスを選択します。

ステップ5 Cisco XCP Text Conference Manager サービスを再起動します。

ルームメンバーの設定



(注) 常設チャットルームは、作成時の設定を継承します。後で行った変更は、既存のルームには適用されません。これらの変更は、変更が有効になった後に作成されたルームにのみ適用されます。

表 1:

フィールド	説明
デフォルトではルームはメンバー専用です (Rooms are for members only by default)	<p>ルームを作成する際にメンバー専用をデフォルト設定にする場合には、このチェックボックスをオンにします。メンバー専用ルームには、そのルームのオーナーまたは管理者が設定した許可リストのユーザのみがアクセスすることができます。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。</p> <p>(注) 許可リストにはそのルームに許可されているメンバーのリストが含まれています。このリストは、メンバー専用ルームの所有者または管理者によって作成されます。</p>
他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレータのみです (Only moderators can invite people to members-only rooms)	<p>モデレータのみがルームへのユーザの招待を行うことができるようにルームを設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにしている場合は、メンバーが他のユーザをルームに参加するよう招待できます。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p>
ルームのオーナーは、ルームをメンバー専用にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are for members only)	<p>ルームをメンバー専用にするかどうかをルームオーナーが変更できるように設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p> <p>(注) ルーム所有者は、そのルームを作成したユーザか、(許可されている場合は) ルーム作成者または所有者によって所有者ステータスを持つ者として指定されたユーザです。ルーム所有者は、ルーム設定の変更やルーム破棄のほか、その他のすべての管理機能を実行できます。</p>

フィールド	説明
ルームのオーナーは、他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレータに限定するかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not only moderators can invite people to members-only rooms)	ルームの所有者にメンバーが他のユーザをルームに招待できるようにルームを設定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
ユーザは自分自身をメンバーとしてルームに追加できます (Users can add themselves to rooms as members)	すべてのユーザが随時ルームへの参加要求ができるように設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオンになっている場合、ルームはオープンメンバーシップになります。デフォルトで、このチェックボックスはオフになっています。
ルームのオーナーは、ユーザが自分自身をメンバーとしてルームに追加できるようにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether users can add themselves to rooms as members)	ステップ 5 に記載された設定をルームオーナーが随時変更可能であるようにルームを設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。

可用性の設定

可用性の設定は、ルーム内のユーザの可視性を決定します。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、メッセージング > グループチャット および 常設チャットを選択します。
 - ステップ 2 アベイラビリティ設定の箇所の説明されるように、アベイラビリティのメンバー設定を構成します。
 - ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 4 Cisco Unified IM and Presence Serviceability で、ツール > コントロールセンター - 機能サービスを選択します。
 - ステップ 5 Cisco XCP Text Conference Manager サービスを再起動します。
-

アベイラビリティの設定

フィールド	説明
ルーム内にいないメンバーや管理者がルームに表示されたままです (Members and administrators who are not in a room are still visible in the room)	その時にオフラインのユーザでもルームの名簿に記載したままにするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。 (注) 管理者がチャットルームを離れても、管理者のユーザ ID はチャットルームに表示されます。ユーザのリストを更新するには、チャットルームを閉じてから再度開く必要があります。
ルームのオーナーは、ルーム内にいないメンバーや管理者がルームに表示されたままにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether members and administrators who are not in a room are still visible in the room)	ルームのオーナーがメンバーまたは管理者の表示を変更できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
ルームは古いクライアントと下位互換性があります (Rooms are backwards-compatible with older clients)	以前のグループチャット 1.0 クライアントを使用したサービスを適切に機能させる場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。
ルームのオーナーは、ルームが古いクライアントと下位互換性があるかのようにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether rooms are backwards-compatible with older clients)	ルームオーナーがチャットルームの下位互換性を制御できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。
デフォルトで、ルームは匿名です (Rooms are anonymous by default)	ルームにユーザのニックネームは表示しても、Jabber ID は公開しない場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。
ルームのオーナーは、ルームを匿名にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are anonymous)	ユーザの Jabber ID の匿名レベルをルームオーナーが管理できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。

利用者数の設定

利用者数の設定では、特定の時間にチャットルームに参加することができるユーザ数を指定します。

手順

ステップ 1 ルーム内で許可されるユーザのシステム最大数を変更するには、[同時にルームに入室できるユーザ数 (How many users can be in a room at one time)] のフィールドに値を入力します。デフォルト値は 1000 に設定されています。

(注) ルーム内のユーザの総数は、設定する値を超えることはできません。ルーム内のユーザの総数には、通常のユーザと非表示のユーザの両方が含まれます。

ステップ 2 ルーム内で許可される非表示ユーザの数を変更するには、[同時に入室できる非表示ユーザ数 (How many hidden users can be in a room at one time)] のフィールドに値を入力します。非表示のユーザは他のユーザには表示されません。また、ルームにメッセージを送信できません。さらに、プレゼンス更新を送信しません。非表示のユーザは、ルーム内のすべてのメッセージを表示したり、他のユーザのプレゼンス更新を受信したりできます。デフォルト値は 1000 です。

ステップ 3 ルーム内に許可されるユーザのデフォルトの最大数を変更するには、[デフォルトのルーム最大利用者数 (Default maximum occupancy for a room)] のフィールドに値を入力します。デフォルト値は 50 に設定され、ステップ 1 で設定された値よりも大きくできません。

ステップ 4 デフォルトのルーム利用者数をルーム所有者が変更できるようにする場合は、[ルーム所有者がデフォルトのルーム最大利用者数を変更できます (Room owners can change default maximum occupancy for a room)] チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

チャットメッセージの設定

チャットメッセージ設定を使用して、役割に基づいた特権をユーザに付与します。ほとんどの場合、役割は、ビジターからモデレータへの階層に存在します。たとえば、参加者はビジターができることはすべて実行できます。また、モデレータは参加者ができることはすべて実行できます。

デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

手順

ステップ 1 [Lowest participation level a user can have to send a private message from within the room (ルーム内からプライベートメッセージを送信するためにユーザに必要な最小参加レベル)] のドロップダウンリストから次のいずれかを選択します。

- **ゲスト** では、ゲスト、参加者、モデレータがルーム内の他のユーザにプライベートメッセージを送信することができます。
- **[参加者 (Participant)]** を選択すると、参加者およびモデレータがルーム内の他のユーザにプライベートメッセージを送信できます。
- **[モデレータ (Moderator)]** を選択すると、モデレータのみがルーム内の他のユーザにプライベートメッセージを送信できます。

ステップ 2 プライベートメッセージの最小参加レベルをルーム所有者が変更できるようにする場合は、**[ルーム内からプライベートメッセージを送信するためにユーザに必要な最小参加レベルをルーム所有者が変更できます (Room owners can change the lowest participation level a user can have to send a private message from within the room)]** チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

ステップ 3 **[Lowest participation level a user can have to change a room's subject (ルームの件名を変更するためにユーザに必要な最小参加レベル)]** のドロップダウンリストから次のいずれかを選択します。

- a) **[参加者 (Participant)]** を選択すると、参加者およびモデレータがルームの件名を変更できます。これがデフォルトの設定です。
- b) **[モデレータ (Moderator)]** を選択すると、モデレータのみがルームの件名を変更できます。

ビジターは、ルームの件名を変更できません。

ステップ 4 ルームの件名を更新するための最小参加者レベルをルーム所有者が変更できるようにする場合は、**[ルームの件名を変更するためにユーザに必要な最小参加レベルをルーム所有者が変更できます (Room owners can change the lowest participation level a user can have to change a room's subject)]** チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 メッセージからすべての拡張可能ハイパーテキストマークアップ言語 (XHTML) を削除する場合は、**[すべての XHTML フォーマットをメッセージから削除します (Remove all XHTML formatting from messages)]** チェックボックスをオンにします。デフォルトで、このチェックボックスはオフになっています。

ステップ 6 XHTML フォーマット設定をルーム所有者が変更できるようにする場合は、**[ルーム所有者が XHTML フォーマット設定を変更できます (Room owners can change XHTML formatting setting)]** チェックボックスをオンにします。デフォルトで、このチェックボックスはオフになっています。

ステップ 7 **[保存 (Save)]** をクリックします。

モデレータが管理するルームの設定

モデレータが管理するルームは、ルーム内のボイス特権を付与または取り消す機能をモデレータに提供します (グループチャットの場合、ボイスはチャットメッセージをルームに送信する機能のことです)。ビジターはモデレータが管理するルームでインスタントメッセージを送信できません。

手順

-
- ステップ1 モデレータの役割をルームで適用する場合は、**[デフォルトでモデレータがルームを管理し
ず (Rooms are moderated by default)]** チェックボックスをオンにします。デフォルトで、このチェックボックスはオフになっています。
 - ステップ2 ルームをモデレータが管理するかどうかをルーム所有者が変更できるようにするには、**[デフォルトでモデレータがルームを管理するかどうかをルーム所有者が変更できません (Room owners can change whether rooms are moderated by default)]** チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
 - ステップ3 **[保存 (Save)]** をクリックします。
-

履歴の設定

履歴設定を使用して、ルームで取得し、表示するメッセージのデフォルト値および最大値を設定し、履歴クエリを使用して取得できるメッセージ数を管理します。ユーザがルームに入室すると、そのユーザはルームのメッセージ履歴に送信されます。履歴設定は、ユーザが受信する過去のメッセージ数を決定します。

手順

-
- ステップ1 ユーザがアーカイブから取得できるメッセージの最大数を変更するには、**[アーカイブから取得できるメッセージの最大数 (Maximum number of messages that can be retrieved from the archive)]** のフィールドに値を入力します。デフォルト値は100に設定されています。これは、次の設定の上限としての役割を果たします。
 - ステップ2 ユーザがチャットルームに入室するときに表示される以前のメッセージの数を変更するには、**[デフォルトで表示されるチャット履歴内のメッセージ数 (Number of messages in chat history displayed by default)]** のフィールドに値を入力します。デフォルト値は15に設定され、ステップ1で設定された値よりも大きくできません。
 - ステップ3 ユーザがチャットルームに入室したときに表示される以前のメッセージの数をルーム所有者が変更できるようにする場合は、**[ルーム所有者がチャット履歴に表示されるメッセージ数を変更できません (Room owners can change the number of messages displayed in chat history)]** チェックボックスをオンにします。デフォルトで、このチェックボックスはオフになっています。
 - ステップ4 **[保存 (Save)]** をクリックします。
-

チャットルームのシステム デフォルト設定へのリセット

グループチャットの設定をアドホックチャットルームと常設チャットルームのシステムデフォルト設定にリセットする場合は、この手順を使用します。



- (注) アドホックチャットはデフォルトで有効になっており、常設チャットはデフォルトでは無効になっています。このタスクを完了すると、常設チャットが無効になります

手順

ステップ1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration で、**メッセージング > 設定** を選択します。

ステップ2 [デフォルトに設定 (Set to Default)] をクリックします。

ステップ3 [保存 (Save)] をクリックします。

チャット ノード エイリアスの管理

チャット ノードのエイリアスの管理

クラスタのチャットノードのエイリアスを管理するには、このタスクを完了してください。システムによる、エイリアスの自動管理あるいは手動更新を設定することができます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	チャットエイリアス管理の割り当てモード (13 ページ)	システムでチャット ノードのエイリアスを管理するか、または手動で実行するかを指定します。
ステップ2	チャットノードエイリアスの手動の追加 (14 ページ)	クラスタのチャットノードのエイリアスを追加、編集、または削除します。

チャット エイリアス管理の割り当てモード

システムがチャット ノード エイリアスを自動で割り当てする設定にする場合は、`conference-x-clusterid.domain naming convention` 命名規則を使用して、チャット ノード エイリアスを自動的に割り当てるか、あるいは手動で割り当てるかを設定します。

始める前に

チャット ノードのエイリアスの詳細については、[チャット ノードエイリアスの概要 \(1 ページ\)](#) を参照してください。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**メッセージング > グループチャット および 常設チャット**を選択します。

ステップ2 システムで生成されたエイリアスを有効または無効にします。

- システムがチャットノードエイリアスを自動的に割り当てる設定にする場合は、**プライマリグループチャットサーバのエイリアスをシステムで自動的に管理する**をオンにします。

ヒント **[Messaging (メッセージング)] > [Group Chat Server Alias Mapping (グループチャットサーバのエイリアスマッピング)]**を選択して、システムで生成されたエイリアスが **[Primary Group Chat Server Aliases (プライマリグループサーバのエイリアス)]**の下にリストされていることを確認します。

- チャットノードエイリアスを手動で割り当てる場合は、**プライマリグループチャットサーバのエイリアスをシステムで自動的に管理する**をオフにします。

次のタスク

- チャットノードにシステムで生成されたエイリアスを設定する場合でも、ノードと複数のエイリアスを必要に応じて関連付けることができます。
- 外部ドメインとフェデレーションすると、エイリアスが変更され、新しいエイリアスが使用可能であることをフェデレーション相手に通知する場合があります。すべてのエイリアスを外部にアドバタイズするには、DNSを設定し、DNSレコードとしてエイリアスをパブリッシュします。
- システム生成エイリアス設定を更新した場合、これらの操作のいずれかを実行して、Cisco XCP Text Conference Manager を再起動します。
- チャットノードのエイリアスを追加、編集、または削除するには、[チャットノードエイリアスの手動の追加 \(14 ページ\)](#)。

チャットノードエイリアスの手動の追加

手動でチャットノードのエイリアスを追加、編集、または削除する設定にするには、この手順を使用します。手動でチャットノードのエイリアスを管理するには、システムで生成されたエイリアスを使用するデフォルト設定をオフにする必要があります。システムで生成されたエイリアスをオフにすると、既存のエイリアス (conference-x-clusterid.domain) は、**[会議サーバのエイリアス (Conference Server Aliases)]**の下にリストされる標準の編集可能なエイリアスに戻ります。これで、古いエイリアスとそのエイリアスに関連付けられているチャットルームのアドレスは維持されます。

チャットノードに手動で複数のエイリアスを割り当てることができます。システムで生成されたエイリアスがチャットノードにすでに存在する場合でも、ノードに追加エイリアスを手動で関連付けることができます。

手動管理されるエイリアスでは、クラスタ ID またはドメインが変更された場合、手動でエイリアスリストを更新するのは管理者の責任です。システムで生成されたエイリアスが変更された値を自動的に組み込みます。



- (注) これは必須ではありませんが、ノードに新しいチャットノードのエイリアスを割り当てる場合はドメインを常に含めることを推奨します。追加エイリアスには、`newalias.domain` の表記を使用します。ドメインを確認するには、**Cisco Unified CM IM and Presence 管理 > プレゼンス設定 > 詳細設定** を選択します。

始める前に

[チャット エイリアス管理の割り当てモード \(13 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** **Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で、**メッセージング > グループ チャット サーバ エイリアス マッピング**を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックします。
- グループチャットサーバの [エイリアス] ウィンドウに、既存のノードエイリアスが表示されます。
- ステップ 3** 新しいエイリアスを追加する：
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - グループチャットサーバエイリアス** フィールドに新しいエイリアスを入力します。
 - サーバ名** ドロップダウンリストボックスで、エイリアスを割り当てるサーバを選択します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 4** 既存のエイリアスを編集する：
- エイリアスを選択します。
 - 更新情報を入力し、**保存** をクリックします。
- ステップ 5** エイリアスを削除するには、エイリアスを選択して、**選択項目の削除** をクリックします。

次のタスク

- Cisco XCP Text Conference Manager をオンにします。

チャットノードエイリアスのトラブルシューティングのヒント

- どのチャットノードのエイリアスも一意でなければなりません。システムはクラスタ全体に重複したチャットノードのエイリアスを作成することを防ぎます。
- チャットノードのエイリアス名を IM and Presence ドメイン名と同じにすることはできません。
- 古いエイリアスでチャットルームのアドレスを維持する必要がなくなった場合に限り古いエイリアスを削除します。
- 外部ドメインとフェデレーションすると、エイリアスが変更され、新しいエイリアスが使用可能であることをフェデレーション相手に通知する場合があります。すべてのエイリアスを外部にアドバタイズするには、DNS を設定し、DNS レコードとしてエイリアスをパブリッシュします。
- チャットノードのエイリアス設定のいずれかを更新したら、Cisco XCP Text Conference Manager を再起動します。

常設チャット用の外部データベースのクリーンアップ

外部データベースを監視し、期限切れのレコードを削除するジョブを設定します。これで、常に最新のレコードのために十分なディスクスペースが確保されます。

常設チャット用のデータベーステーブルをクリンナップするには、必ず**機能テーブル**の下の**Text Conference (TC)** 機能を選択します。

手順

ステップ 1 データベースパブリッシャノードで Cisco Unified CM IM and Presence Administration にログインします。

ステップ 2 メッセージング > 外部データベースの設定 > 外部データベース を選択します。

ステップ 3 外部 DB のクリアをクリックします。

ステップ 4 次のいずれかを実行します。

- パブリッシャノードに接続する外部データベースを手動でクリーンアップするには、**samecup** ノードを選択します。
- サブスクリバノードに接続する外部データベースを手動でクリーンアップする場合は、**その他の CupNode** を選択してから、外部データベースの詳細を選択します。
- 外部データベースを自動的にモニタおよびクリーンアップするシステム設定の場合は、**自動クリーンアップ** オプション ボタンをオンにします。

(注) 自動クリーンアップを設定する前に、手動でのクリーンアップを実行することを推奨します。

ステップ5 いつまでさかのぼってファイル削除をするかの**日数**を設定します。たとえば、**90**を入力した場合、システムは**90** 日前以前の古いレコードを削除します。

ステップ6 データベースのインデックスとストアードプロシージャを作成するには、**スキーマの更新** をクリックします。

(注) スキーマの更新は、このジョブを最初に実行するときのみです。

ステップ7 いつまでさかのぼってファイル削除をするかの**日数**を設定します。たとえば、**90**を入力した場合、システムは**90** 日より前の古いレコードを削除します。

ステップ8 **機能テーブル** セクションで、レコードをクリーンアップする各機能を選択します。

- **テキスト会議**：常設チャット機能のデータベーステーブルを消去するには、このオプションを選択します。
- **メッセージアーカイバ (MA)**：メッセージアーカイバ機能のデータベース テーブルをクリーンアップするには、このオプションを選択します。
- **非同期ファイル転送 (AFT)**：マネージドファイル転送機能のデータベース テーブルを消去するには、このオプションを選択します。

ステップ9 [クリーンアップジョブを送信 (Submit Clean-up Job)] をクリックします。

(注) [自動 (Automatic)] オプションが有効になっていて、それを無効にする場合は、[自動クリーンアップジョブの無効化 (Disable Automatic Clean-up Job)] ボタンをクリックします。

チャットインタラクションの管理

チャット ノードのエイリアスを変更すると、データベースのチャット ルームのアドレス指定が不可能になり、ユーザが既存のチャット ルームを検索できなくなることがあります。

エイリアスまたは他のノードの依存関係の構成部分を変更する前にこれらの結果に注意してください。

- **クラスタ ID**：この値は完全修飾クラスタ名 (FQDN) の一部です。クラスタ ID を変更 ([システム]>[プレゼンス トポロジの設定] を選択) すると、FQDN はクラスタ全体で自動的に変更される新しい値およびシステム管理されたエイリアスを組み込みます。手動管理されたエイリアスでは、クラスタ ID が変更された場合、手動でエイリアス リストを更新するのは管理者の責任です。
- **ドメイン**：この値は FQDN の一部です。ドメインを変更 ([プレゼンス]>[プレゼンスの設定] を選択) すると、FQDN はクラスタ全体で自動的に変更される新しい値およびシステム管理されたエイリアスを組み込みます。手動管理されたエイリアスでは、ドメインが変更された場合、手動でエイリアス リストを更新するのは管理者の責任です。
- **チャット ノードと外部データベース間の接続**：永続的なチャットが有効で、外部データベースとの適切な接続が維持されていない場合、チャット ノードは起動しません。

- チャットノードの削除：プレゼンストポロジから既存のエイリアスに関連付けられているノードを削除した場合、それ以上の処理を行わない限り、その古いエイリアスを使用して作成したチャットルームをアドレス指定できないことがあります。

変更の広い影響を考慮せずに既存のエイリアスを変更しないことを推奨します。つまり、次のようにします。

- ユーザが必要に応じて古いエイリアスによって既存のチャットルームを検索できるように、データベースに古いチャットノードのアドレスを維持します。
- 外部ドメインとのフェデレーションがある場合、DNSエイリアスをパブリッシュし、エイリアスに変更され、新しいアドレスが使用可能であることをそのドメインのユーザに通知する必要があります。これはすべてのエイリアスを外部にアドバタイズするかどうかによって異なります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。